

令和6年3月30日

医療法人弘仁会  
熊本総合医療リハビリテーション学院  
学院長 高野 定 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 笠岡 俊 志

### 令和5年度 学校関係者評価委員会報告

熊本総合医療リハビリテーション学院学校関係者評価委員会は、平成4年度自己点検・自己評価報告書に基付き、学校関係者評価を実施したので、以下のとおり報告します。

#### 記

##### 1. 学校関係者評価委員

委員長 笠岡俊志（熊本大学病院 災害医療教育研究センター 教授・センター長）  
委員 長福武志（熊本セントラル病院 リハビリテーション科 科長）  
今田吉彦（熊本機能病院 総合リハビリテーション部 作業療法課 課長）  
黒田彰紀（熊本赤十字病院 腎臓内科部 臨床工学課 腎センター CE係長）  
上野敏輝（徳田義肢製作所 装具部 営業課 課長）  
高井英二（くまもと南部広域病院 副院長）  
森田淳士（熊本県立東稜高等学校 校長）  
柿原 聡（熊本総合医療リハビリテーション学院卒業生 代表）  
帆鷲和広（熊本総合医療リハビリテーション学院後援会 会長）

##### 2. 学校関係者評価委員会開催状況

日時：令和5年10月24日(火) 19:00～  
会場：熊本総合医療リハビリテーション学院 1号館 会議室2

##### 3. 学校関係者評価報告書

別添「令和5年度学校関係者評価報告書」のとおり

令和5年度

学校関係者評価報告書

令和6年3月

熊本総合医療リハビリテーション学院

## 1 教育理念・目的・育成人材像

### 現 状 と 課 題

教育理念・目的・育成人材像と共に、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び卒業認定・称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の3つのポリシーを定め、事業計画等に明記し、学外へは学院案内及び学院ホームページ等により広く開示している。理念等に基づき、各学科において、それぞれの専門性に沿った教育目標を掲げ、医療人育成に向けた教育活動に取り組んでいる。

5学科を擁する多様な医療専門職教育を展開していること、長い歴史を有し多数の卒業生が地域医療界等で活躍していること、また、学外実習を充実させ、専門職としての実践的な知識と技術を修得させていること、それを可能にする多岐にわたる学外実習施設との連携を有すること等が学院の特色である。

関連業界の動向を見据え、入学定員の確保、卒業生の就職等を適確に実現するため、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会からの意見・提言を踏まえ、中期的な構想について協議し、事業計画に反映させている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・医療の分野でも多職種連携が進む中、大学の医学部でも複数の学科が一緒になってグループワークの取組みを行っている。学院においても多職種連携を考えた教育が実施できると良い。
- ・学院では関連する資格取得の支援をされているので、学生には取得した資格が社会に出た時に役に立つことをしっかりと説明して共感を得られると、受験者数も増えるのではないかと。
- ・義肢装具学科において「3次元CAD利用技術者」や「3Dプリンター活用技術検定」という資格は、就職活動において十分に有利に働くので、資格取得に向けた取組みを検討してはどうか。

## 2 学校運営

### 現 状 と 課 題

理念等に基づく運営方針は明確に定め、事業計画に反映させると共に、職員会議等を通して全教職員に周知している。

職員会議、教職員会議に加えて、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会、保健管理委員会、企画運営委員会、入試検討委員会、国家試験対策委員会、自己評価委員会、教育・研修委員会、学生支援委員会及び広報委員会等を整備し、各委員会で審議した事項は、職員会議にて報告、承認を得るなど、意思決定システムは明確で、適切に機能している。また、学校運営の現状を踏まえ、学則、委員会規則等の改正を行っている。

賃金制度については、就業規則の給与規程に基づき、職務手当等が定められている。教員の採用については、採用選考面接を行い、その結果に基づき審議し、養成施設指定規則に定められた基準を満たす人材を確保している。

情報システム化については、学内全ての教室でWi-Fiが使用可能であり、学内・外のネットワークが構築され、情報共有化、業務の効率化が図られている。学生の成績、出欠等を一元管理する教務システム（CampusForce）は、必要に応じた改善を進めている。学習管理システム（Moodle）は、資料提示等の学習管理のほか、学生への情報伝達に活用している。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・レポートを自分の力で作成する学生とAIを活用して作成する学生がいた場合、学生に対して公平性が損なわれないよう、何かしらのルールを定めても良いかもしれない。

### 3 教育活動

#### 現 状 と 課 題

理念等の達成に向けて、カリキュラム・ポリシーを適切に定め、事業計画に記すと共に職員会議にて周知している。また、学生・父母等・関連業界等に対する理解と協力を得るため学院ホームページ等で公表している。各学科の教育目標、育成人材像は、入学者の基礎学力の状況や教育課程編成委員会からの意見等を踏まえ、適切に方向付けている。

教育到達レベルは、国家資格取得という明確な目標に沿って設定しており、修業年限に対応すると共にディプロマ・ポリシーとして明確化している。また、各学科の教育内容は養成施設指定規則の基準を充たすと共に、教育課程においては各授業科目を順次的・体系的に位置付け、カリキュラム・ツリーにて可視化しシラバスに明示している。また、キャリア教育については、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、授業や学外実習等を通して実施している。なお、教育課程については、教育課程編成委員会や卒業生の就職先からの意見を反映し見直している。

学生の成績評価・単位認定基準は、学則及び学院細則において明確に定められ、適切に運用されている。

教職員の資質向上を目的に、教育・研修委員会が中心となり、対面及び Moodle（学習管理システム）を利用したオンデマンド型研修会、学生による授業評価を実施している。また、デジタル推進機構を組織し、ICTを活用した教育活動を推進している。各教員は学会等への参加を通して専門性の向上や指導方法の工夫改善に取り組んでいる。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、適宜オンラインによる遠隔授業を実施している。臨床・臨地実習に関しては、一部学内代替実習として実施している。

#### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・卒業論文発表会、卒業研究発表会、実習報告会など教育活動を伝える手段として、動画の活用は学生募集に関する一つの手立てになるのではないかと。
- ・外部の教育機関で救急医療に関する実技を教えるのに色々と苦労している。学院ではさまざまな事情があると思うが、少し余裕をもった（指導者の）配置ができないかをお願いしたい。
- ・指導力の向上には、OFF-JT と OJT の両方の研修をもって人材育成ができると考えており、一斉研修も大事であり、日頃の先輩からのアドバイス等も大事である。
- ・教員一人当たりの業務分担（特に授業時数）について、実態を把握し、改善できるところは改善の検討をされてはどうか。

### 4 学修成果

#### 現 状 と 課 題

国家試験対策については、国家試験対策委員会と各学科の連携の下、模擬試験、特別講義、グループ学習への支援及びメンタルサポート等きめ細かに対応している。また、詳細な課題分析を行い指導内容のさらなる向上に努めている。最終学年での集中的な支援と共に、1年次からの継続的な支援及び成績下位者への計画的な学習支援にも取り組んでいる。国家試験合格率の推移等については全国の合格率を把握し、出題傾向の分析等も行っている。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、学習管理システム（Moodle）やZoom等を用いての学習支援を行っている。

就職支援については、就職説明会の開催、面接指導、履歴書添削指導等、計画的・組織的に取り組んでおり、就職率は高く支援の成果が現れている。

卒業生の社会的評価については、卒業生同窓会や関連業界からの情報を得ると共に、卒業生の就職先へのアンケート調査を実施し、把握している。

#### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・病院救命士がメディアに取り上げられ、認知度が高まってきている。スキルのある人が病院救命士として活躍している実態を知っているので、学院の卒業生が病院救命士として活躍できる道筋が今後できれば良い。
- ・病院で活躍する救急救命士の数は、今後、増える傾向にあると思うので、何かしらのアピールを行ったら良いのではないかと。
- ・就職先へのアンケートの結果は、学院のアピールに繋がる内容のものもあると思うので、何かしらの形で活用してはどうか。

### 現 状 と 課 題

就職支援、退学率の改善、健康管理等に関しては、学生支援委員会、保健管理委員会と各学科が連携し、組織的な学生支援活動を展開している。

就職支援については、担当講師が個別相談窓口となり、きめ細かに指導している。また、毎年開催している就職説明会については、オンライン開催を取り入れている。更に、福祉住環境コーディネーター、認知症ケア指導管理士（初級）、第2種ME技術実力検定、JPTECプロバイダー等関連資格の取得を奨励して就職活動を支援している。また、早まる採用試験時期に対応するため、教育課程の変更と併せ臨床・臨地実習時期の見直しを図っている。

退学率低減については、入学前からの学習支援、1年次を主体にオリエンテーション、ホームルーム、面談、国語・数学の基礎学力向上に向けたリメディアル教育等の取り組みを進めている。また、成績下位者を対象とした個別的、組織的な学習支援活動や休学者に対するきめ細かな支援を実施している。

学生相談体制の整備については、カウンセリング室を設置し、カウンセラーによるカウンセリングを定期的に行っている。更に、前期及び後期の早期において全学生を対象にメンタルヘルスアンケートを実施、講師による面談を行う等、支援を要する学生の早期把握と心理面へのケアに努めている。

奨学金の手続き業務等、適正な支援体制を整備し、学生の経済的側面からの支援に取り組んでいる。また、自然災害や新型コロナウイルス感染症に関する支援制度、教育訓練給付金制度についても同様の対応を行っている。更に学院後援会と連携し、インフルエンザ予防接種、麻疹、風疹等の抗体価検査費用及び新型コロナウイルス感染症に関する検査費用の一部を補助している。

学生の健康管理については、保健管理委員会と各学科・学務課が連携し、定期的に健康診断を行うと共に、実習施設から求められる基準についても適切に対応している。また、新型コロナウイルス感染症については、対策マニュアルを改訂し、学生及び教職員に周知している。

通学の利便性向上のため、スクールバスの運行業務を推進している。更に卒業生への支援に関しては国家試験対策学習会や専門分野の研修会等を開催するなど、手厚くフォローしている。

父母等との連携については、懇談会を開催し、教育方針や学生の状況等について説明し意見交換を行っている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・公務員試験に対する支援については、授業の時間を損なうことなく就職支援を行い、それが就職率の向上に繋がれば良い。
- ・就職先の門戸が広がり、選択肢が増えるということは良いことである。学生が色々なキャリアに進んでいけるような支援を今後も行っていければ良い。
- ・国語・数学のリメディアル教育は、学力が十分でない学生に対しては、重要なサポートである。
- ・入学前教育プログラムの受講については、若干の強制力を持たせても良いのではないかと。
- ・退学の理由は多様であるとのことなので、要因を把握しながら対策を取っていくようにすれば良い。

## 6 教育環境

### 現状と課題

施設、設備等は関連法による基準を全て満たしており、学生が適切な教育環境の下で学習に取り組むことが出来るよう整備されている。教育機器については、より効果的な学習成果に繋がるよう、各学科と連携を図りながら一定の予算措置に基づき計画的に購入している。また、施設等の管理者とその役割については規程により明確化し、施設・設備のメンテナンス体制を整備している。

学外実習については、定期的な臨床実習・臨地実習指導者会議の開催や巡回訪問指導等を通して、関係機関と密接に連携を図るなど、教育体制は適切である。学外実習の教育効果については、実習成績表等を基に、状況を把握し効果を確認している。令和4年度の学外実習は、新型コロナウイルス感染症の影響下、厚生労働省、文部科学省等の指針のもと、学内実習による代替を含め実習計画を変更したうえで適切に実施している。

防災については、防災・安全管理委員会と事務局、各学科の連携の下、業務の適正な運営を図っている。令和4年度は、4月に防災訓練を11月に消防設備点検と併せて消火器・屋内消火栓の取り扱い訓練を実施するとともに、防災・安全管理規程及び危機管理マニュアルを教職員に周知している。

防災設備は定期的に点検し、避難経路図及び避難経路標識を掲示するなど、安全確保に向けて防災意識の啓発に取り組んでいる。なお、火災保険等にも加入しており、教育機器についても担保されている。

学生に対して安全教育を行うと共に、通学時の交通安全指導を定期的に行っている。学生加入の傷害保険については、新型コロナウイルス感染症関連の補償も含む保険へ移行している。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・意見・提言はなく、内容は妥当と思われる。

## 7 学生の募集と受け入れ

### 現状と課題

学生募集については、広報委員会と事務局、各学科の連携の下、高等学校訪問、オープンキャンパス、入試相談会、医療職種説明会等、広範且つ多様な活動を組織的に展開している。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学院説明会とオープンキャンパスの一部は、感染対策を踏まえオンラインにて開催している。

令和5年度入学試験においては、指定校推薦に関する評定平均値等を見直すと共に、経済的支援として入学金等の減免措置を行っている。入学者数については、学科によっては連続して定員を充足できていない状況にあり、次年度の入学者確保に向けた新たな取り組みを検討している。

学院案内、学院ホームページ等は、志願者・保護者等にとって分かりやすい表現を工夫し、問い合わせ・相談には適切に対応している。学院案内については、学科毎のアピールポイントを「学科の魅力」として掲載している。就職実績、国家資格取得実績等、学修成果については、学生募集活動等を通して適切に情報提供を行っている。また、Instagram等のSNSを活用した適切な情報発信に努めている。なお、学院ホームページは内容の充実を図ると共に、スマートフォン等から容易に閲覧できるようにしている。

入学選考については、アドミッション・ポリシーに沿って、可否判定基準を明確に定め、入学試験合格判定会議にて適正に選考している。なお、令和5年度推薦入学試験での面接において、オンライン面接試験を導入している。また、経済的支援として理学療法学科及び作業療法学科の指定校推薦入学者に対する入学金の減免や、オープンキャンパス参加者に対する受験料減免を行っている。

学納金については、各学科の定員、教員数等、多面的に検討し決定しており、妥当なものになっている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・学院のInstagramは、学生の声を取り上げてあり先生方の顔も見えている。非常に良い記事内容になっている。
- ・募集定員確保の中間目標として、オープンキャンパス参加者数は一つの指標になるので、オープンキャンパスに来た生徒たちを大事にすることが、志願者増加につながるのではないかと。

## 8 財務

### 現 状 と 課 題

志願者確保に向け、5学科を擁する医療専門職養成校としての特色を生かした広報活動を組織的、計画的に行っている。令和5年度入学者においては、全体として82.2%の充足率であり、前年度に引き続き入学定員の確保と退学率の低減が課題である。入試検討委員会での入試形態等の検討や広報委員会を中心とした学生募集活動、学生支援委員会を中心とした退学率低減に向けた学習支援活動等、教育部及び事務部との連携のもと展開している。

校舎の新築、改修等で一時増加した借入金も、計画どおり返済できており、財務基盤は問題ないと言える。また、財務情報については、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」及び「高等教育の就学支援新制度」を踏まえ、財務状況を学院ホームページで公開するなど、適切に対応している。

予算・収支計画については、学院事業計画を法人理事会で諮り、年度予算、中期計画等を審議し決定している。

会計監査については、顧問税理士事務所による月次監査等、税理士事務所と連携して適正に実施されている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・意見・提言はなく、内容は妥当と思われる。

## 9 法令等の遵守

### 現 状 と 課 題

専修学校設置基準等の関係法令に基づき、学則や就業規則等を整備し、適正な運営がなされている。各種規則等については、教職員へ徹底すると共に、学生に対してはオリエンテーション等で規則遵守を周知している。

個人情報保護については、その重要性について教職員や学生に周知を図ると共に、個人情報保護法に基づき、個人情報保護方針と個人情報保護規程を定めている。外部からの不正アクセス、コンピュータウイルス対策として情報セキュリティシステムを構築するなど適切な対策を講じている。また、情報モラルの徹底に向け、ソーシャルメディアポリシーを定め、教職員や学生に周知している。

私立専門学校等評価研究機構の基準 Ver4.0に基づき令和3年度に実施した自己点検・自己評価の結果に対して、学校関係者評価委員会による外部評価を行っている。学校関係者評価委員会からの意見・提言に基づき、学校運営や教育活動の改善に取り組んでいる。

自己点検・自己評価及び学校関係者評価に関する方針は、それぞれ自己評価委員会規則、学校関係者評価委員会規則に明示されており、教職員へも周知している。自己点検・自己評価報告書は職員会議で審議し、学校関係者評価報告書、教育課程編成委員会議事録と併せて学院ホームページで広く公表している。また、教育活動、学校運営の状況に関する情報も学院案内等で広く提供している。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・学校関係者評価委員の方々が「委員会の活動が、学院の教育活動に具体的に活かされている」という実態を知ることによって、委員会活動に対する理解も更に深まると思う。

**現 状 と 課 題**

各学科とも、それぞれの養成する専門職としての特色を活かしながら、関連する行政や職能団体と連携して、社会的活動に積極的に取り組んでいる。

外部からの学生ボランティア参加要請については、学生支援委員会で取りまとめ、学院内グループウェアや学習管理システム（Moodle）等を通して情報を提供する等、学生のボランティア活動を支援している。また、ボランティアの活動状況について学院ホームページを通して情報発信している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けボランティアの募集は減少しているものの献血、熊本城マラソン等には多くの学生が参加協力している。また、学院周辺の清掃活動を定期的に行っている。

ボランティア活動への積極的な参加と、参加意欲のさらなる向上に向け、学生表彰規程を設けている。

**学校関係者評価委員会の意見・提言**

- ・社会に出た時にボランティア活動の経験は役に立つということを学生にしっかりと伝えて、ボランティア活動に参加する学生が増えれば良い。